

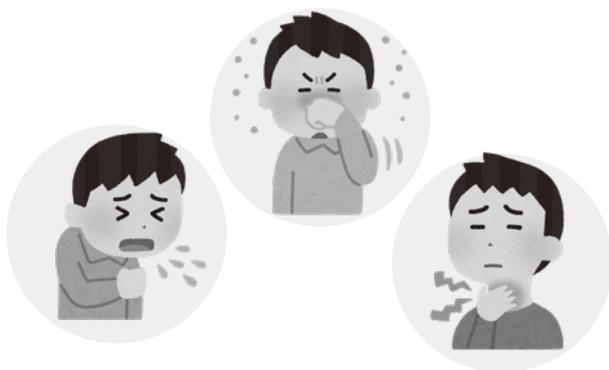


カビによる健康被害を知ろう

国保京丹波町病院

おおにし まさみ 看護師

梅雨や夏の時期、なぜか咳や微熱が良く出ると思っている方はいませんか？それはカビが原因かもしれません。カビにとってこの梅雨の時期は湿度や温度が好条件なため、すごい勢いで増殖します。そのカビの胞子を吸い込むことで、アレルギー症状（くしゃみ、鼻つまり、のどの痛み、咳など）や肺炎などの呼吸器疾患を引き起こすことがあるのです。



カビは栄養分になる有機物がある場所（家具、カーテン、ジュタンなど）に発生しやすく、光のない暗い場所でも成長します。さらに、カビは酸素を必要とし、気温なら20度から30度、そして湿度が70%以上になると増殖しやすくなります。普段あまり掃除ができない家具やカーペットの下、敷きっぱなしの布団など注意が必要です。

カビによる呼吸器系の病気にならないためには、カビが好む場所の掃除と換気、エアコン・水回りの掃除をこまめにしましょう。また掃除の際にはホコリやカビを吸い込まないように、マスクを着用しましょう。



カビで起こりやすい炎症

夏型過敏性肺炎

西日本に多く見られるトリコスポロンというカビに対する過敏性肺炎のひとつです。症状として、乾いた咳、微熱、息切れなどがあります。軽症であればカビを除去することで改善します。重症化するとステロイドの治療が必要になりますので注意が必要です。

肺アスペルギルス症

肺に炎症を起こし、重篤な症状を引き起こす感染症で、肺真菌症の代表的なものです。肺の機能が低下している人が感染しやすく、症状としては湿った咳と痰（たん）、発熱で、さらに進行すると血痰が出ることもあります。